

## 戸津井鍾乳洞

戸津井鍾乳洞は 2 億 5000 万年以上前にできた貴重なもので、間近で鍾乳石を鑑賞できる神秘的な地底世界が広がっています。戸津井鍾乳洞に続く小道を進んでいくと、形や大きさの異なる鍾乳石や石筍のある洞窟が現れ、天井、地面、壁面から伸びているカルサイト（方解石）を見ることができます。これは、今なお続く浸食と堆積鉱床の産物です。

カルサイト（方解石）は白みがかっていますが、たいていはオレンジ色、赤色、黒色などの色がわずかに混ざっています。明かりがこれらのカルサイト（方解石）を照らし出し、その細部や彩色を際立たせています。地質学者によると、地表植生や土壌に含まれるミネラル、時には酸の影響で色がつくとされています。

洞窟は全長 100 メートルほどで、身をかがめなければ通れないほどの狭い道となっています。洞内は 6 区画からなり、それぞれイメージにちなんだ名前がついています。例えば、「カニのトンネル（*the Crab Tunnel*）」では、カニのようにしゃがんで横向きになり、その先の「針天井の間（*the Needle Ceiling Chamber*）」に進まなければなりません。この他、「蜂の巣岩（*Bee's Nest Rock*）」は六角形のくぼみがある壁面で囲われているなど、特徴のある洞窟を堪能することができます。

なお、鍾乳洞の入口は 20 世紀始めに石灰岩の採掘作業中に山腹に掘られた坑道にあり、歴史的な近代産業遺産という背景もあります。当時、石灰は、建材や肥料として使用されていましたが、戸津井鍾乳洞が発見されたことで、採掘は終わりを迎えました。

戸津井鍾乳洞が見学できるのは、基本的に週末、祝祭日、夏季のピーク時などで、午前 9 時から午後 5 時まで入場可能です。洞窟入口までの公共交通機関はなく、鍾乳洞までの道路は非常に狭くなっています。